

大気汚染から考えるモビリティ・マネジメント教育の実践報告

長澤 慎哉（新宿区立西戸山小学校）
高橋 勝美（仙台市）
平見 憲司（一般財団法人計量計画研究所）

目的

本実践では、「大気汚染」を題材とした小学校の授業を通じて実施した学校教育モビリティ・マネジメントの効果と実施上の課題を明らかにすることを目的とした

実践内容

- ①公害や大気汚染について考える
 - ・交通アンケートを実施する
 - ・公害、大気汚染とはどのようなものかを知る
 - ・大気が汚れている地域と汚れていない地域はどこかを予想し、その理由を発表する
- ②自分や家族の交通手段について調べる
 - ・交通手段のアンケートの結果を発表する
 - ・アンケートからどの交通手段が多く利用されているかを知る
 - ・鉄道、道路網が拡充されていることを理解し、都心ではどちらも拡充されていることを知る
- ③交通手段の特徴について考える。
 - ・様々な交通手段の良い点と問題点を整理する
 - ・バスと自家用車の問題点に着目し、自動車由来のNOx・PM排出量を調べ、自動車の排出ガスが大気汚染の大きな原因であることを知る
 - ・自動車の保有台数を調べる
- ④都市部と地方部のNOx濃度を調べ、考える
 - ・都市部と地方部のNOx濃度の測定結果から、気づいたことを発表する
- ⑤都市部における大気汚染を改善する交通の対策について調べ、発表する
- ⑥学習のまとめを行う
 - ・一人一人の取組について考える
 - ・事後アンケートを実施する

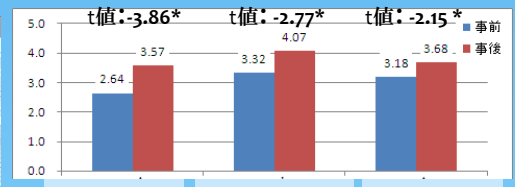
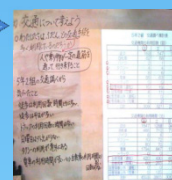
授業カリキュラムの評価

<方法>

授業カリキュラムの最初と最後にアンケートを実施

<結果>

- 「できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思う」、「バス、鉄道を良くするためには、クルマ利用を控えなければならない」と考えた児童が増えた
⇒自動車利用抑制、公共交通改善について道徳的な意識向上が見られた
- 「できるだけクルマを控えようと思う」児童が増えた
⇒自動車利用抑制の実行意図の向上が見られた
- ▼一方、家族と授業内容について話をした児童は上記の傾向があまり見られなかった



できるだけ、クルマの利用を控えなければならないと思う

バス、鉄道を良くするためには、クルマ利用を控えなければならないと思う

できるだけクルマを控えようと思う

図 授業前後のアンケート結果の平均値の差の検定結果

結論

- 大気汚染を題材とした小学校の授業を通じたモビリティ・マネジメント学習の一定の有効性が明らかになった
- 授業の内容について家族と話をするように促す際には、家族から**マイナス**の影響を受けにくいような工夫が必要

